

# ごんた坂

第28号

光陵高校同窓会会報

〈発行所〉神奈川県立光陵高等学校光陵会

〈印刷所〉SALAT 株式会社 サラト



©大塚典幸



晴天に恵まれ、華やかな看板に彩られた光陵祭の入場門



バンドの演奏に盛り上がる光陵生たち



## 野球部の応援から

会長 太田 秀和 (2期)

母校光陵野球部を応援するために、昨年の夏も、甲子園大会神奈川予選が実施された相模原球場に行きました。校長先生も応援に来てくださっていて、うれしかったことを覚えています。

もちろん野球部だけを特別扱いするつもりはなく、他の運動部・文化部の活躍も心から願っているのですが、次の2つの単純な理由から野球部OB・OG会の特別会員になっています。

- 1 野球場は、たくさんの卒業生・在校生が応援できる場所です。
- 2 校歌をみんなで歌い、母校を好きなことを確認できる場所です。

昔、「光陵野球部のOB会長になってください」という依頼がありました。野球部のOBではないのでお断りして副会長を務めた

ことがあります。その時以来、OB会費を納める特別会員になったのです。

私はかつてプロ野球西武ライオンズの球団社長を務めていました。その時、痛切に感じたことは、球団がどんなにすばらしい企画を用意してもチームが強くないと多くの観客を集められないということです。いうまでもなく光陵高校は野球学校ではありません。それでも、勝負にはこだわり、勝てるチーム作りをお願いしたいとも思っています。強くなってもらいたくて、友人が埼玉県立浦和高校野球部の監督をしていたので、光陵と浦和の定期戦を組んでもらったことなども思い出します。どうか、がんばってください。

野球部に限らず光陵のすべての運動部・文化部が、そしてすべての生徒たちが、文武両道の精神で大活躍してくれることを心から願っています。私たち卒業生も、現役の生徒たちをはるかに、時には直接に応援しながら、それぞれの現在をがんばりましょう。



## 変化した生活

事務局長 牧野 暖登 (52期)

皆様にとって昨年はどういう年だったでしょうか。新型コロナウイルス感染対策のための行動制限も緩くなってきており、だんだんとコロナ以前の生活に戻っているのを感じているのではないのでしょうか。私が通っている大学では授業がすべて対面で行われるようになり、サークル活動なども解禁されてようやく普通の大学生活が送れるようになってきたと感じています。光陵会としても昨年は数年ぶりに光陵祭へ参加することができるようになり、光陵生と直接かかわ

ることができる機会が増えたことをうれしく感じています。

大変なことが多かったコロナ禍ですが、オンラインでつながることのできる有用性を実感した経験でもありました。総会・懇親会などの行事はこれからも対面とオンラインの併用で行うことを検討していますので「わざわざ現地に行って参加するのはちょっと…」という方や「参加したいけど距離が遠いので行かない」という方なども高校時代のご友人などを誘ってオンラインで参加してみるのはいかがでしょうか。皆様のご参加をお待ちしております。

最後になりましたが、会報の発行にあたってご協力いただいたすべての方々および支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

# 学びは新たなステージへ！ 社会に合わせた光陵の変化

光陵高校ではこの1年で、教育環境が大きく変化しました。中でも変化が顕著なのが、GIGAスクール構想によるICT機器の活用とSTEAM教育の開始です。2つの取組みについて取材を行うとともに、先生・生徒へのインタビューを通じ、どのような取組みや工夫が行われているか調べました。

## GIGAスクール構想とは

文部科学省が掲げるICTを活用した教育環境整備を推進する政策です。一人一端末と、高速大容量の通信ネットワークの整備により、多様な児童生徒を誰一人取り残すことなく、資質・能力を公正かつ確実に育成できる教育環境の実現を目標としています。具体的にはICT機器（タブレットやノートパソコン）の購入、学校のインターネット環境整備、その他専門人材の登用などがあります。光陵高校でも2019年より生徒へのノートパソコン貸与が開始され、2022年現在では現1年生の全員がノートパソコンを所持しています。



一人一端末でグループ学習がスムーズになりました。

## GIGAスクール構想による学習環境の変化

生徒が一人一台ノートパソコンを所持したことによって、多くの授業ではそれら端末の活用が進んでいます。活用の一例として、



パソコンを使って授業の振り返りを行っています。

授業後の振り返りシート作成を紙のレポートからノートパソコン上のアプリケーションへ切り替えたり、それらの提出物をWeb上に設けられたフォームからオンライン経由で提出したりしています。

またグループワークにおいては一つのファイルを複数人で共有、編集できる機能を活用し、場所や時間に縛られることなく共同で作業することができる環境が整ったといえます。

元々光陵高校ではKUなどを通じてグループワークが盛んでしたが、一人一端末の実現でより気軽に取り掛かることができ、一層活発な意見交換が行われています。

また授業内で使用することで、自然とITスキルの向上にもつながっているそうです。

## STEAM教育について

もう一つの大きな変化としては、STEAM教育の開始です。光陵高校は2022年度より、神奈川県教育委員会から「STEAM教育研究推進校」の指定を受けています。STEAM教育とは、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Arts(芸術・教養)、Mathematics(数学)の頭文字を取った造語「STEAM」という各分野における学習・体験を通じて、テクノロジーが密接に関わる社会での問題発見・解決に活かすために実施される教科等横断的な教育のことです。教科等横断的な学習であるSTEAM教育は、複数の教科を組み合わせることで授業が展開されることが一般的です。

## 探究的学習の現在

一般的なSTEAM教育では教科を組み合わせる授業が展開される一方、光陵高校では各教科の単元の中で実社会につながる課題を「問い」として設定して授業を行っています。それぞれの教科における課題ではありながら、教科の枠だけで物事を考えるのではなく、他の教科や分野の知見・知恵を応用し、生徒自身でつながりながら解決策を考えていくことを意図しています。これらは結果として教科等横断的な学習となり、これまで光陵高校で行ってきた「KU(光陵ユニバース)」とつながる部分が多くあります。

従来から光陵高校ではKUにおいて、問いを持ち、探究していく学びが盛んでしたが、STEAM教育の導入に伴いKUにおける探究活動はさらに活発化しています。これまでは2年時から本格的に研究が始まっていましたが、現在は1年生から練習としてグループ探究の時間が新たに設けられており、早いうちから主体的に探究力の育成が図られています。また従来KUは個人研究のみでしたが、現在はグループでの研究も認められるようになりました。これにより研究テーマ数が厳選され、1テーマあたりの指導が手厚くなるというメリットも出ています。加えて生徒の相談役として「探究アドバイザー」という大学生・大学院生等を対象とした教育ボランティアが指導を補助することにより、より一層主体的に探究・表現する活動が充実したものとなっています。

## 先生・受講生インタビュー



STEAM教育やICT機器導入によって、光陵高校にどのような変化があったのでしょうか。ICT機器活用やSTEAM教育開始の準備を担当された久保田先生と、現役生の57期（1年生）の加納さんと長谷川さんに取材を行いました。

（以下 久：久保田先生、加：加納さん、長：長谷川さん）

**Q. 生徒全員が使用しているというChromebook（※1）ですが、実際どのような場面で使われているのか教えてください。**

**A.**

**加：**授業中、班で意見を共有するときに使っています。Googleスライド（※2）を活用することが多いです。先生が授業で使うプリントのデータをパソコンに送って、各自パソコン上で作業することもあります。あとは、Googleフォーム（※3）を使ってテストの振り返りを提出しています。

**長：**授業以外だと、部活の連絡や、朝の健康観察の提出でも使っています。

**Q. 一人一台Chromebookを持つようになったことで、良かったと感じることはありますか。**

**A.**

**加：**一人一台の端末を使えることで、各々の作業がしやすくなりました。また、授業の中で先生の言葉をメモする時に、タイピングなので間違えてもすぐに消してやり直すことができ、すごく便利です。授業でスライドを作って提出するときは、Googleチャット（※4）を活用すると素早く情報共有できます。

**長：**パソコンを持ち帰ることで、課題を家で終わらせられるので、便利だと感じています。

**久：**ペーパーレス化と意見共有が簡単になったことだと思います。例えば家庭科の授業では全てChromebookを活用して行っています。そのため紙を大幅に減らすことができました。また光陵は元々グループワークをする機会が多いですが、デジタル化、ペーパーレス化されたことでよりやりやすくなっています。授業の幅がとても広がりました。

**Q. 一人一台端末を実現するまでの経緯を教えてください。**

**A.**

**久：**実は神奈川県から指示が出る2、3か月ぐらい前、Googleから今の2年生（56期）全員を対象にChromebookの1年間貸出しと実証検証の提案を受けていました。おかげで想定よりも半年早くICT機器のある環境を体験できたため、2022年4月からの本格的な端末を活用した授業の開始時には少し慣れている状況でスタートすることができました。

ただ準備で一番苦労したのは機種選びです。実証検証で重さが重要だと分かったため、今年の1年生はChromebookという1kg以下の軽量の機種を選んでいますが、それでも生徒によっては重いと感じるようです。

**Q. KUやSTEAM教育なども含めて、光陵の探究活動と探究学習の目標や今後の展望を教えてください。**

**A.**

**久：**光陵はスクールポリシーで生徒につけてほしい力を示しています。それは「協働する力」、「生きる力」そして「突き抜ける力」です。この中で光陵生に足りないと感じるのが、最後の突き抜ける力。

光陵生はどこか引込み思案な所があるのですが、各教科やKUを通して「実社会につながる課題」に取り組み、挑戦をする気持ちを身につけて欲しいです。探究を深めることで自己肯定感を高める一つのきっかけになれば嬉しいですね。そして培った知識やKUの成果をもとにコンテストに参加したり、外部に向けて発信したりといった突き抜けたチャレンジが増えてくるといいですね。KUはキャリア教育なので、外部に向けて開いたものになると目指す形に近づくのではないのかなと思います。



久保田@神奈川県光陵

左から長谷川さん、久保田先生、加納さん

（※1）Googleが提供するChromeOSにて動く比較的シンプルなノートパソコン

（※2）Googleがクラウド上で提供する、文字や写真、グラフなど様々なコンテンツを使ったスライドが作成できるアプリケーション

（※3）Googleがクラウド上で提供する、アンケート、投票などに使うフォーム作成用アプリケーション

（※4）Googleが提供するメッセージ、ファイルなどを交換できるコミュニケーション用アプリケーション

## 取材後記

光陵の探究的学習は、柔軟な発想力を養い、自ら新しい道を開拓していくことができる、21世紀型の教育として評価されています。探究活動を通し、柔軟な発想で自ら挑戦していくことで、キャリアに結びつく体験やきっかけを得られるでしょう。心やさしき社会のリーダーを育成する母校の発展に、ぜひ注目していきたいです。

54期：池田、54期：堀部、52期：吉川、52期：南

# これが令和の光陵部活動！

光陵高校ではダンス部、サッカー部、野球部etc...様々な部活が活動しています。そんな中、近年他の学校にはあまり見られないような、ユニークな部活の活動が活発になっています。そこで、今回はクイズ研究部、園芸同好会、筋トレ同好会、パソコン同好会にお話を伺いました。

質問事項

Q1. どのような経緯で発足したのか。  
Q2. いつごろ発足したのか。

Q3. 活動内容  
Q4. 実際に活動してみたの感想

## クイズ研究部(56期:岩重さん)

- A1. 不明。
- A2. 顧問の岡田先生に伺ったところ、2016年にはあったそうです。
- A3. クイズをやったり、一人が問題を読んで解答したり、あとはたまにみんなで勉強したりしています。また、たまに近くで大会があるのでそれに参加してみたり、全く結果は振るわなかったんですけど、とりあえず参加してみようみたいなかんじです。
- A4. ・自分が入った時は(部員の)男子の比率が多くて、けど面白くてめっちゃ入ってよかったなって思います。  
・入部した当初は、自分もクイズというものをあまり知らなくて、まわりの先輩たちをみてかっこいいな、同級生とか後輩とかも自分の得意ジャンルというものがあってそういうところが面白いです。



いつもの練習風景

## 園芸同好会(56期:横君)

- A1. 学校の花壇のようなスペースに勝手に植物の種を植えたのがきっかけです。その後友達と意気投合し、同好会発足を決めました。
- A2. 2022年11月。
- A3. 部室の裏のスペースがほとんど荒地なので、そこにある雑草などを抜いたり、耕したり、畑を作っています。また、具体的には庭を作りたいので、今は種を蒔いて、旬の野菜を育てています。
- A4. 普段外に出て、自然と触れ合う機会が少ないため、心があらわれる感じがして良い息抜きになっています。



自分たちの耕した部室裏の畑にて

## パソコン同好会(55期:長谷川君)

- A1. 入学後、自宅学習期間が明けたのち、6名ほどの友人と集まって、すぐに生徒グループの先生と相談して発足しました。
- A2. 2020年11月ごろ。
- A3. 特に決まったものを定めているわけではありませんが、昨年度は動画制作やタイピング等の練習、関連する他部活のITの支援事業、学校常設のChromebookの整理作業などを行いました。  
↓パソコン同好会HPがあるのでぜひそちらもご覧ください。  
<https://koryo-pc.jimdofree.com/>
- A4. この同好会は、ある程度ITを扱える仲間が集まっているという強みがあり、それを活かして今年度の光陵祭では強いマンパワーを発揮しました。また、自由な活動をモットーとしているため活動が多岐にわたり、多くの仲間がフレンドリーに協力し、刺激を受けあう関係にあります。これからはSociety 5.0の社会となり、教育現場に多くのIT技術が導入され、生徒にもITを扱う素質が求められるため、パソコン同好会はこれからも光陵高校のITの先駆けとして活動していきたいです。



活動場所である物理室

## 筋トレ同好会

(発足者→54期:高橋君/現部員→57期:田中君、江口君)

- A1. 筋トレの器具が体育館前から部室棟に移動して、個人の使用ができなくなってしまったことから、友達と同好会を作ろうって感じで始めました。(発足者の54期の高橋君にお話を伺いました。)
- A2. 2020年冬。
- A3. 毎朝、30分から1時間くらい、部室棟の集会室(トレーニングルーム)で、各々目標を決めて活動に励んでいます。
- A4. ・自重だと成長具合が遅い、自分の体以上の重量が扱えると、成長、変化が見られるようになって楽しいです。  
・腕立てなどできる回数が増えて、できるようになって楽しいと思えます。



部室棟下トレーニング場

## 編集後記

私(53期)が高校生だった約3年前にはなかったような部活(同好会)ができていて、取材をしていく中でとても驚きました。また、今の光陵には、生徒たちが同好会を発足しやすい雰囲気があるのかな、と思いました。これからもいろんな部活や同好会が、光陵を明るくしてくれるのを楽しみにしています!!

53期:長島、山野上

## 光陵の教壇に立ってみませんか?

### ～キャリアガイダンス講師募集のお知らせ～

光陵高校では毎年3月に、1・2年生対象の「キャリアガイダンス」というプログラムを実施しています。キャリアガイダンスとは、さまざまな分野で活躍する卒業生が、仕事の内容や進路選択の過程を現役生にお話しし、将来のキャリア形成に役立ててもらおうというものです。

2022年度は、3月11日(土)に対面形式とオンライン形式で併用開催され、十数名の卒業生にご協力いただきました。弁護士、スポーツドクター、アナウンサーなど各界の卒業生のお話に、現役生は真剣に耳を傾けていました。幅広い業種に従事する講師らが高校時代の体験談を交えて熱く語る講義は、現役生にとって将来のキャリアを考えるきっかけになるとともに、社会に出た光陵の先輩とのつながりを感じられる貴重な機会です。また、講師同士が異業種交流を通じて光陵の絆を再確認する場ともなっています。

光陵会は講師をしていただく卒業生を光陵高校にご紹介する形で、このプログラムに協力しています。趣旨に賛同していただき、講師としての参加に関心のある方はぜひ「光陵高校内光陵会」(住所: 保土ヶ谷区権太坂1-7-1、メールアドレス: staff@koryokai.jp)までご連絡ください。

また、光陵会では卒業生にご職業などの人材情報を登録していただく「光陵卒業生人材バンク」を運営しております。人材バンクの情報はキャリアガイダンスへの講師紹介などに活用させていただきます。ご協力いただける方はぜひ上記連絡先までご連絡ください。



卒業生の講義に熱心に耳を傾ける光陵生たち

## 寄贈事業報告

光陵会では毎年、光陵高校に寄贈を行っております。2022年度は学校側からの寄贈品の希望が無かったため、寄贈は実施いたしませんでした。今後も有意義な寄贈が行えるよう取り組んでまいりますので、会員の皆様のご意見・ご要望がございましたら、ぜひ同封のハガキでお寄せいただけますと幸いです。

## 母校の最新情報

### 進路状況 (光陵高校HP)



<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/koryo-h/shinro/shinrojyoukyo.html>

### 部活動実績 (光陵高校HP)



<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/koryo-h/seikatsu/bukatsudou.html>

### 教職員異動 (神奈川県HP)



[https://www.pref.kanagawa.jp/documents/97376/230330\\_ken.pdf](https://www.pref.kanagawa.jp/documents/97376/230330_ken.pdf)

## 卒業生からの便り

- 8期生34組そろそろ集まりたいね。(8期)
- 英国在住ですが、5月11日に無事「ごんた坂」が届きました。事務局の皆さんありがとうございます。(8期)
- 定年退職の年を迎えて、ご無沙汰していた旧友との交流が、また増えてきました。会わずにいた長い年月にもかかわらず友との距離はより近く思えることにとても感謝します。(12期)
- 毎年の箱根駅伝の中継が母校周辺状況の情報源。ずいぶん変わっているようです。元町橋交差点の所から、いつもダッシュしていた通学路をゆっくりと歩きたいです。(12期)
- 東京都の現職教員であることから、『教職基礎』開講、大変興味深く拝読しました。同窓会幹事の皆様いつもありがとうございます。(14期)
- 代車で借りたVWポロが、偶然「横浜ナンバー」。…微妙に気分がアガったのは、一瞬の「似非ハマっ子」だった、光陵での日々…のせいかもしれない。(17期)
- コロナでリモートワークが定着し、本当に働き方が変わったと感じます。不注意で骨折しましたが、リモートワークで殆ど仕事ができてしまう有り難さを感じています。でも、リモートの良さを理解すればするほど、リアルの素晴らしさを痛感しています。(17期)
- 卒業して早十年。教育実習以降は母校に行く機会がなく、ずっとご無沙汰ですが、会報が届くのが年々楽しみになっています。事務局の皆様、ありがとうございます。(17期)
- いつも光陵会の運営、ありがとうございます。総会にはなかなか参加できませんが、18期35HRのクラス会は卒業以来ずっと繋がっています。担任の竹内先生とも連絡を取っています。また近頃は1年生の時のクラス15HRの集まりもコロナ禍で限定的ですが35年ぶりに復活しました。長い年月を経ても多くのクラスメイトと連絡が取れるのは光陵会組織がしっかりと運営されているお陰だと思っています。(18期)
- 2年前、3度目の海外駐在地のインド、バンガロールから帰国し、家族で大阪に住んでいます。離れてなお会う友人が光陵ワングル仲間です。大切な仲間です。(19期)
- お世話様です。2年前脳出血で、半身麻痺。利用しているデイ・サービスのスタッフさんの娘さんが、光陵生だと聴き、私かなり前のOGよ〜と。新しい個性と共に元気に過ごしています。(19期 19期のバンビ様)
- 九州で教員をしていますが、昨今の教員不足には苦勞しています。光陵ならではの「教職基礎」、すてきですね！学ばせていただきたい取組です。(24期)
- 昨年、改修中の校舎にお伺いしました。購買や階段の手すりなど変わらない所も多く懐かしかったです。在校生が丁寧に挨拶してくれました。(26期)
- 今の生徒さんの時間割に興味があります。私の頃は理系なのに3年生で日本史週5。つらかった。(31期)
- コロナ禍になってからインターネットラジオのサービス、radikoを使って全国のラジオを聴くようになりました。ラジオ番組を通じてまだ行った事がない街やかつて行った事がある街の風景を思い浮かべています。日に日に行ってみたい街が増えています。(37期)
- ずっと地元に住んでいるので、時々光陵の制服を着た学生さんを見かけます。一目で光陵生と分かる黒い制服。当時は好きでしたが、今見てもやっぱりいいなと思います。(38期)
- 昨年この欄でお送りした言葉を会報に掲載いただけただけで驚きました。光陵祭にもここ数年なかなか足を運ばずにおり、つてもなく、現役当時に作ったものや科学部の近況が気になっていましたので大変ありがとうございます。(41期)

### 「ご意見募集のお知らせ」

光陵会では会員の皆様のご意見・ご感想を、総会懇親会出欠登録用のWebフォーム内で募集しております。光陵高校で過ごした思い出や会報を読んで思い出されたことなど、ぜひお聞かせください。来年度の『ごんた坂』で一部をご紹介しますことができます。

## 会報発行協力金のお願い

会報発行協力金にご協力いただき、誠にありがとうございます。

本会報の発行は、2009年から名簿委託業者である(株)サルトとの共同事業の契約とし、会報発行費用は最大負担額を定めた独立採算制となっております。会員の皆様には、会報発行費用について賛助協力金として1口2,000円をお願いしております。本年度もコンビニエンスストアで決済可能な振込用紙を、失礼を承知の上で同封させていただきました。

光陵会事務局は今後も存続し、母校への発展寄与のため力を尽くしてまいりたいと一同強く願っております。何卒、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。また、従来からお願いをさせていただいております光陵会への直接の賛助金も受け付けておりますが、これを機会にぜひ会報発行協力金にご賛同いただけますよう、どうぞよろしく願いいたします。

※会報発行協力金は発行費用(約200万円)を上回ります賛助協力金をいただいた場合、上回った分の8割が光陵会への賛助となる仕組みです。※同封の振込用紙は、郵便振込を利用されますと金額の訂正が可能となります。コンビニエンスストアを利用される場合は一律2,000円となりますのでご注意ください。

## ♪ 青春かながわ校歌祭のお知らせ ♪

昨年は第17回の校歌祭が開催されましたが、光陵会はコロナ禍のもと練習の開催が困難だったことから参加を見合わせました。今年の第18回以降については状況を鑑みながら参加を検討します。

今後の詳細につきましてはホームページ等でお知らせします。お問い合わせは光陵会スタッフ(staff@koryokai.jp)まで。

## 同窓生向け SNSのご案内

卒業後の交流の場として同窓生向けSNSが運営されています。加入希望、お問い合わせは下記へお願いいたします。たくさんの方のご参加をお待ちしております。  
URL: <http://www.koryo.gr.jp/sns/>  
MAIL: [koryo-kai-request@koryo.gr.jp](mailto:koryo-kai-request@koryo.gr.jp)  
運営: 光陵会メーリングリスト(koryo.gr.jp)

## 2022年度総会・懇親会報告

開催日：2022年6月11日(土)

### 総会・特別講演 @オンライン Zoom

以下の議事項目が全て承認されましたことをご報告いたします。

①2021年度決算報告、②2022年度予算案審議、③2022年度役員及び監査承認

特別講演は4期河野典子氏を講師にお迎えし、「映画制作 ことばれ話」についてお話いただきました。

### 懇親会

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けまして、誠に残念ながら中止とさせていただきますが、特別講演後は参加者によるオンラインでの歓談の場を設けました。

## 会員名簿の取扱いについて

光陵会では、2020年9月に皆様のご協力の下、会員名簿を発刊いたしました。光陵会では会員以外に会員名簿を配布することは一切なく、会員各位の情報が外部に漏れることのないよう、プライバシーマーク取得企業で名簿委託業者の(株)サルトとともに厳重に管理しております。皆様も名簿の取扱いには十分ご注意の上、外部への流出がないよう、ご配慮ください。

また昨今、光陵会の名を騙り、会員の皆様の勤務先への問い合わせや勧誘・物品販売などが行われているようですが、これらは光陵会とは一切関係ございません。内容を確認の上、適切にご対応くださいますようお願い申し上げます。

なお、会員名簿のご購入を希望される方は下記までお問い合わせください。光陵会事務局からお手続きの詳細の連絡をさせていただきます。事務局の定例作業等での対応となりますため、お手続きには1ヵ月程度のお時間をいただく場合がございます。期間の余裕をもってご連絡いただけますと幸いです。なお、会員名簿の販売は、原則お一人様1冊までとなります。



宛先:「光陵会事務局メールアドレス」 [staff@koryokai.jp](mailto:staff@koryokai.jp)

## 会計報告

### 2022年度決算

(2022/03/01~2023/02/28)

#### (収入の部)

入会費・終身会費	¥2,900,000
懇親会会費	¥0
賛助金	¥0
名簿売上	¥7,000
その他	¥199
その他(預り金)	¥633,150
前年度繰越金	¥26,651,581
合計	¥30,191,930

#### (支出の部)

通信費	¥201,840
事務費	¥53,867
運営費	¥420,424
交通費	¥44,810
総会懇親会費	¥69,680
H P 運用費	¥24,200
会報費	¥500,000
校歌祭費	¥0
光陵祭費	¥66,000
高校寄付費	¥0
設備予備費	¥0
合計	¥1,380,821
収支差額	¥28,811,109

### 2023年度予算案

(2023/03/01~2024/02/29)

#### (収入の部)

入会費・終身会費	¥3,020,000
懇親会会費	¥500,000
前年度繰越金	¥28,811,109
合計	¥32,331,109

#### (支出の部)

通信費	¥300,000
事務費	¥60,000
運営費	¥600,000
交通費	¥100,000
総会懇親会費	¥500,000
H P 運用費	¥50,000
会報費	¥500,000
校歌祭費	¥70,000
光陵祭費	¥80,000
高校寄付費	¥400,000
設備予備費	¥150,000
合計	¥2,810,000
収支差額	¥29,521,109

2023年度はようやく同窓生の皆様を集めての懇談の機会を提供できそうですので、事務局にて準備を進めております。

### ～ 賛助金への御礼 ～

2022年度は総会をオンライン開催としたため直接のご支援を賜る機会がございましたが、日頃の皆様の温かいお心遣いや会の運営へのご理解ご協力を深く感謝しております。引き続き充実した同窓会運営に努めてまいりますので、今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

### 2022年度光陵会役員・監査・事務局

会長	太田 秀和 (2期)	
副会長	大道 正夫 (4期)	山本 勉 (4期)
	茅野 憲 (7期)	中濱こずえ (9期)
	荒木 宏之 (19期)	藤原 直人 (31期)
理事	虻川 真紀 (25期)	増田 祐徳 (36期)
	金子 周平 (38期)	佐藤 楓 (42期)
	藤居 悠人 (43期)	山本 航介 (43期)
	佐藤 菫 (44期)	長尾沙津季 (46期)
	加藤 圭祐 (49期)	
会計	菊名 直人 (42期)	寺田 祐晟 (52期)
	于 棋棋 (52期)	伊藤 空也 (53期)
	田村 純也 (54期)	
監査	上原 武 (25期)	高橋 芳昌 (33期)
	柘植 貴之 (41期)	萬 紗帆 (46期)
	中村 凧沙 (49期)	
事務局長	牧野 暖登 (52期)	
副局長	山下 粧子 (50期)	櫻井 悠貴 (51期)
	高橋 歩希 (52期)	南 香帆 (52期)
	阿部 夢生 (53期)	新藤 さえ (54期)
	渡辺 銀河 (54期)	
書記	吉川 佳歩 (52期)	山野上葉音 (53期)
	長島 海咲 (53期)	

### 2023年度光陵会役員・監査・事務局

会長	太田 秀和 (2期)	
副会長	大道 正夫 (4期)	山本 勉 (4期)
	茅野 憲 (7期)	中濱こずえ (9期)
	荒木 宏之 (19期)	藤原 直人 (31期)
理事	虻川 真紀 (25期)	増田 祐徳 (36期)
	金子 周平 (38期)	佐藤 楓 (42期)
	藤居 悠人 (43期)	山本 航介 (43期)
	佐藤 菫 (44期)	長尾沙津季 (46期)
	加藤 圭祐 (49期)	
会計	菊名 直人 (42期)	寺田 祐晟 (52期)
	于 棋棋 (52期)	伊藤 空也 (53期)
	成瀬 佑 (54期)	笠間 結斗 (55期)
監査	上原 武 (25期)	高橋 芳昌 (33期)
	柘植 貴之 (41期)	萬 紗帆 (46期)
	中村 凧沙 (49期)	
事務局長	池田 結香 (54期)	
副局長	牧野 暖登 (52期)	高橋 歩希 (52期)
	南 香帆 (52期)	野本 優菜 (55期)
書記	吉川 佳歩 (52期)	山野上葉音 (53期)
	長島 海咲 (53期)	堀部 琴 (54期)
	岡田 裕希 (55期)	田辺 春佳 (55期)
	長谷川 肇 (55期)	清水さゆり (55期)

2023年度

# 光陵会総会・懇親会のご案内

2023年

# 6月10日(土)

総会

14:00～16:00(13:30開場予定)

場所：**アットビジネスセンター横浜西口駅前**  
(横浜市西区北幸1-8-4 土地横浜西口第二ビル501号室)

**オンライン開催(Zoom使用)も併用します**

会費：無料

<議事次第(予定)>

- 1 2022年度決算・監査報告
- 2 2023年度予算案審議
- 3 2023年度役員及び監査承認
- 4 事務局活動報告等
- 5 特別講演



※みずほ信託銀行ではなく、1階にみずほ証券が入っている茶色のビルになります。●●●は地下街への出入口です。

## 総会特別講演「写真は記録～視覚・音声情報を記録しようとする体験が導いてくれたもの～」

講師：**秋山 哲也氏**

光陵高校1977年卒(9期生)。元読売新聞東京本社写真記者。2022年2月に退職。2022年4月より帝京平成大学メディア部非常勤顧問。



◆**プロフィール** 1959年、横浜生まれ。1982年立教大学法学部卒。大学時代も光陵高校時代から本格的に始めたサッカーを体育会部員として続けた。1982年、読売新聞社入社。写真記者として本社写真部配属。2000年からはデスク業務兼務。北海道支社(1984～87年)、ロンドンの欧州総局(1990～93年)、福岡の西部本社(2011～14年)にも勤務。西部本社と東京本社での写真部長、編集局編集委員、教育ネットワーク事務局専門委員、同シニア記者嘱託を経て2022年2月に読売を退職。

在職中の2010年からは職業写真家集団の公益社団法人日本写真家協会(JPS)にも所属。2019年より同協会国際交流委員会委員。2021年から委員長。2022年5月に、国際交流委員会の仲間9人とグループ写真展「NO BOUNDARIES」を丸の内で開催。読売新聞社欧州総局写真記者時代の写真4枚を展覧。

冷戦崩壊後の世界秩序を揺るがした湾岸戦争やクルド難民危機、ソ連邦崩壊、「世界の警察」時代最後のソマリアの飢餓救済作戦の取材など、30代での貴重な経験は、今もウクライナ戦争時代の今を理解するための一助となっている。

◆**講演内容** 日本国内をはじめ、欧州や中東などでの取材写真などお見せしながら、実体験の重要性や映像・写真で記録を残す意義などをお話します。編集者、管理職としても働いた新聞社時代の貴重な経験が私を育ててくれました。

懇親会

17:30～19:30(17:00受付開始)

場所：**グレースバリ横浜ハマボールイース店**  
(横浜市西区北幸2-2-1ハマボールイース7階)

会費：一般料金 8,000円  
 特別料金(現旧職員) 5,000円  
 (学生) 1,000円

会場アクセス

横浜駅みなみ西口より  
徒歩7分

横浜市営地下鉄  
横浜駅9番出口  
徒歩4分



## 出欠(委任状)登録、会員情報変更のWeb利用にご協力ください

個人情報管理、経費削減、負担軽減等の観点から、**Web上での出欠(委任状)登録を推奨**とし、それ以外の方法をご希望の方のみ、郵便はがきでのご登録とさせていただきます。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

<出欠(委任状)登録方法> 登録期限：5月26日(金)

Web【推奨】：光陵会ホームページ (<http://koryokai.jp/>) 内の専用フォーム

郵便はがき：会報同封のはがきに記入して郵送



光陵会HP

ご不明な点等がございましたら、上記メールアドレス宛にご連絡ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。